

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム尾西蓮池の家
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	〒494-0019 愛知県一宮市蓮池字郷東20-2
記入者名 (管理者)	原 まりも
記入日	平成 19年 10月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けられる様、支えて行くサービスとしてつくり上げた理念。介護にはやさしさが絶対。	<input checked="" type="radio"/> やさしく、おだやかに静かな介護をめざします。(尾西蓮池の家)
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアーに掲示され、管理者・職員は理念を共有し、実践に向けて日々、取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域への理念の浸透をはかる為、季節の行事開催、地域の行事参加にも努めている。蓮池の便りを3ヶ月に1度発行している。管理者が家族へ便りも毎月1度書いている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合いが出来るように努めている。気軽に立ち寄ってもらえるよう、挨拶、言葉かけに、心掛ける。近隣の片に季節の野菜などいろいろいただき、作り方状況など聞くことが出来る。お返しは必ずしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校の運動会、文化祭などに招待され、交流会を持つ。秋祭りのしし舞が来てくれ交流している。子供会のお祭りにも協力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市及び病院から身寄りのない利用者、生活保護の方々をお風呂に入れ、散髪をして食事をしていただき、関連施設に何人も送っています。	○	今後も一宮市の困っている方々に支援の手を今まで通り実行していきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	お弁当を少しでもなくして、1食ずつでも手作りの努力をしています。又、身体拘束を少しでもなくす様、車椅子の方々の位置移動等、ソファ・ベッド等工夫。	○	一つでも身体拘束をなくす様、日々の努力をかかします。つなぎパジャマ等、安全ベルト等、少しずつなくしていきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、市役所員等に、当ホームのあり方を分かっただけでした。少しずつではありますが、地域の民生委員の方などの交流が沢山出来ました。	○	交流会のようなものが、確立しつつあります。これをふまえて、土台にして少しずつ充実した内容にしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開いてくださった、介護の会の説明会に参加。市の方々と交流できました。何かにつけ、市の方に足を向けた時は、市の方が笑顔で対応していただけます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の方が一人みえました。レベル低下で関連老健に行かれましたが、老健に行ってもメンタルな支援はしていません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待、おむつを夜、交換しないのも虐待である為、気を付け日々、確認しあっている。	○	日々、職員の声を聞きあい、いろいろなトラブルがおきない様に、ミーティングを沢山持っている。心での介護を心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の折には、充分話をして、サイン、印をいただき、お互いに交換している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の手紙で日々の希望をといかけている。電話にて希望が管理者に伝えられている。面会の際にもスタッフに希望が伝わる。ミーティングの時間をもち「不満」を理解したり、利用者の希望を取り入れている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に見えた折、暮らしぶりや健康状態等、説明している。月1回の手紙で報告をしたり、年3回の新聞で写真を載せてみてもらっている。管理者が家族に手紙、必要時、即電話し報告している。家族がいらしたら必ず挨拶をし、御礼を言ったりする。帰りには送り出す。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム来訪の時、家族との会話を持って家族の心を引き出すごとく、話をしたり交流会を持つ。ホーム側から話をしてもらい。送り出し信頼関係を保つ、管理者が家族への訪問。特に一人暮らしの方へ。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開き、昼食も参加して出来る限り職員の話聞き、いろいろな場面を想定した上でミーティングする。	職員も意見を出すので、それにつき管理者に本音を伝え、じぶんなら出来るか？とミーティングをして話を沢山する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応できるよう、必要な時間に職員を確保する為、勤務の調整に努めている。話し合いを常に持っている(ミニミーティング)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう、異動は最小限に抑えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社より、色々な家庭の講習を受けている。レポートを出し上司に提出。評価を貰っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>講習会があるときは、職員の積極的な参加をしている。同じオーナーのグループホームがあり、横のつながり、弁当作り等、協力し合っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間の親睦会 各々、一品ずつ手作りの料理を持ち寄り食事会を開き、悩みや困りごとなど相談、話しあう。忘年祭などに参加、組合大会などに参加している。個々で食事会をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員も日々、年をとってきているため、レベルダウンの利用者を関連施設にお願いをしている。職員の体調に気をつけている。カンファレンスをまめに行い、みんなの考えを聞いて、小さな意見も見逃さず、皆で話をして考えて決めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>困っている、不安な面は、そっと見守ってなれてもらい、職員の協力の元に全体で協力して支援する。</p>	<p>○ 個々で話を聞いて管理者と共に話し合いをし、良い方向付けにして行く様、努力している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>誠心誠意、心をこめて本人、家族の悩みに対応しています。家族との信頼関係には日々努力している。家庭訪問も、時々しています。特に独居の方の家庭には行っています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し、早急な対応が必要な場合は、柔軟な対応に努めている。緊急対応もしている。家族が見えない場合、布団から洋服まで支援してホーム全体がその心を持っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム全体をみてもらったり、職員一人一人の優しい紹介を必ずする。できるかぎり一人でも多くの声掛けをする。一人ひとりの個性をつかんで、家族の状態をつかんで本人になれてもらい一人ひとりの声かけを多くし、スキンシップも行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、日々、おだやかに楽しく生活できるよう、配慮している。一緒に過しながら本人から談笑する時間を取っている。折り紙をしたり、歌を歌ったりし、午前中は体操、歌を歌う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族がホームにみえた時、邪魔にならない様に話しかけをして、それとなく入り込む。心をこめて本人の思いを伝えたりする。	○	必ずみえなくなるまで、お見送りをし、その時は利用者も見送りをする。三者の間の輪を保つごとく、話し掛けをする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人が心優しく交わるように場を保つ。日々のおこった事をそれとなく話をする。電話、手紙で報告をしている。来訪した際には、本人の話をしたりホームの話をしたり努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人などが会いに来て頂き、いつでも交流できるよう、支援している。やさしく、快く、接し又、来訪して下さるよう、挨拶する。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、毎日のお茶、食事の時間は職員も一緒に会話をする。合わない人同士は、快しかけています。	○	利用者同士で関わり合い支え合えるよう、働きかけている。一人一人の心をつかみ調和をはかる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしています。電話をしたり、先方が遊びにみえたり、メールが来たりしています。丁寧な対応をしています。メール等、必要に応じてきたり相談があったりする。心と心の付き合いを感じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、声を掛け言葉や表情から真意を察し、耳も傾けるよう、努めている。	○	会話の中で聞き取りをし、暮らし方の希望を把握に努めるように検討する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に聞いたり、日々の利用者のお話の中から把握するよう、努めている。	○	各々の職員が聞いたはなしなど、全ての職員の情報に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者、一人一人の現状を暮らしの中から把握することに努めている。	○	楽しみと生き甲斐が保たれるよう、努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者で自分らしく暮らせる様に各々の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	楽しみの持てる介護計画を検討している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の利用者の反応や効果を評価し、利用者の状態変化や状況で見直し作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌をつけている(日中、夜間)。申し送りノートにも記入し、話し合いながら計画の見直しに活かしている。	○	介護計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の要望に応じて、通院などの支援をし、その都度、柔軟な支援に努めている。	○	通院、入院時の準備などの対応を続けていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して、暮らしていけるように民生委員等と意見交換する機会を設けている。消防士の方々が来てくれて、支援してくれている。年2回は消防活動をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	レベルに応じて他のサービスも利用し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	センターを含む、社協より利用者の受け入れをし、ケアマネジャーと話をし支援してもらっている。権利擁護を利用していた。利用者の受け入れ。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のホームDrの他、入居前からの病院(家族の希望医)を受診。ホームDr(良心的で往診可)協力していただいている。	○	本人や家族が希望するかかりつけ医で通院介助を続ける。(場合により、家族も協力依頼)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門病院の協力を得て、専門病院の専門看護も受けている。受診にも行なっている。その方達と相談もして支援している。	○	月1回、月2回等の本人の専門病院受診はおろか、週一回の専門病院からの二人体制の訪問看護もこれからも受けている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	朝夕のバイタルチェック。専門病院からの週二回の訪問看護、ホームDrの月1回の往診等、相談しつつ支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	洗濯物を取りにいきつつ、様子を見てくる(1日おき病院訪問)翌日午前中には、おむかえに行っている。	○	管理者のもとに入る情報を伝え、一日も早い退院を行なって、3人対応と管理者で退院にあたっている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームのもとにおだやかに暮らしながらのレベル低下の方々は常にどうするかを家族、医師の元に職員同士で話し合い支援している。計画作成に家族の医師を入れ医師との連携の下に予定を作りターミナルをどうするかはしっかり相談し取り組んでいる。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	行なっています。常に家族と話をし、その都度、変化に対応し医師も含め心の持ち方等、話し合っている。	○	ターミナルケアに近い方と思われる方を医師に相談しつつ、家族とよく話をし職員同士も話をし、日々支援している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の居所へ移る場合、利用者には負担がかからない様、日常生活など詳しく記録し引き継ぐようにしている(老健等)	○	本人にも、移ることをそれなりに話しをして、気の毒なことにならない様に支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇りやプライバシーを損ねる様な言葉掛けや対応・記録など個人情報に注意をはらっている。	○ 秘密を保持している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	他の利用者との交流を促し、会話がはずむ様に職員が支援している。	○ 利用者、その人に合った生活介護、支援を提供し職員もそれにそう様、意識を持つ。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、一人一人のペースを大切にした支援、対応に心掛けている。利用者のニーズにあわせ考え、相談している。	○ 外出や買い物など希望にそって対応を行なう。外でのカラオケ支援もしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服の選択は、基本的には本人の希望で必要に応じ職員は見守りながら手助けする様にしている。移動の理・美容院を利用している。	○ 外出の機会を作り、おしゃれして楽しむ前が汚れる人はまめに着替えをする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の育てた畑の野菜を食材に入れ味わいながら会話もはずむ。楽しみながら声かけしながら食事をする。	○ 元気なうちにと外食にも出かける機会を作り、食事を楽しくするようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に合わせ、食べてもらえる様、支援している。喫茶店は火曜日の午後、行っている。	○ コーヒー嗜好品など(本人の嗜好にそって提供している)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の1日の排泄パターンの把握に努め、尿意のない利用者にも、尿取パットを使用し時間を見計らって声かけし、トイレで排泄できる様、支援している。	○	個々ではあるが、時間を決めてトイレ誘導などしている(トイレで排尿できる様に取り組む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	要介助者については、曜日を決めて実施している。ゆっくりのんびり湯につかれる様、支援自立の方で毎日シャワー浴を希望され、使用していただいている。	○	一人一人の希望やタイミングに合わせ入浴を楽しめるよう支援している。入浴はゆっくり、のんびり湯につかれる様支援。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理のないよう、休息したり眠れるよう、適宜おこなっている。ソファの居眠り等を自由に対応している。	○	夜間、安眠できない利用者の原因を極められる様に時間が持てるよう取り組みたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の色々な場面で一人一人の力を活かした出来そうな仕事を頼んでいる。「お願いします」「助かったわ」など、感謝のこぼれを伝える様にしている。	○	週に一回は、喫茶店の外出支援を続けていく。常時、音楽をかける支援をする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立の方は欲しい物があれば一緒に買い物に行っている。カラオケ支援を外出にて行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の体調、希望に応じて心身の活性につながる様、外出支援している。お月見や夕涼みもしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら支援している。花のシーズンには、忙しいくらい外出している。秋はイチョウを見に行っている。	○	「行けない」とあきらめている利用者が「行ってみたい」と思える様な気持ち作りを大切にしたい。花見、あじさい、チューリップ等、春は外出が多い。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的な電話や手紙を出せるよう、可能な限り支援している。	○	利用者が積極的に外部の人達とコミュニケーションが取りたいと思う気持ちが出てくる様な働きかけをしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に時間は決めていない為、いつでも訪問可能と言うことを声かけしている。食事以外ならば時間は問いません。	○	訪問者が帰られる時は、又、来たいと思っていただける様、心からのごあいさつをしている。車がみえなくなるまで、お見送りをしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを目指している。一人一人拘束をなくすよう、日々努力しているため、少しずつ拘束はなくなっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したらさりげなく、声かけしたり、一緒についていくなど、自由な暮らしを支えるよう、支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は作業を行ないながら全員の状況を把握する様に努める。夜間の休息は居室が見渡せる、リビングのソファで休むなどし、利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管、管理が必要な物は保管する様、取り組んでいる。(利用者の状況を見ながら)。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等あった場合、速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策について検討し、職員の共有意識を図っている。	○	薬の管理、服薬は職員が行っている。事故防止の知識を持ち、取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング等でほとんどの職員が応急手当や初期対応の知識を持っている、対応している。知識のある人が教えたり、見ようみまねでやってみたり、口頭で教えたりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害に察する具体的計画を立て、定期的に避難・救出など必要な訓練実施している。テレビなど固定している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族とコミュニケーションを計り、信頼関係を築ける様努めている。いろいろな例を活かして、その都度、相談している。	○	リスクに対して、安心出来るよう、家族に説明している。常に家族と相談し、おこりうる事は事前に相談している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、申し送りノートに記録、参考にし、体調の変化や異変の早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、本人に手渡しし確実に服薬できたか、確認。服薬の支援と症状の変化の確認を怠らない様に努めている。	○	夜勤者が薬の仕分けをしているが、薬の副作用や目的について理解を深め確認等につとめている(職員全体)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防の為に飲食物を進めたり、身体を動かす等などの声かけをしている(毎日のラジオ体操など)	○	自信で身体を動かせる利用者が少なくなって来ている為、少しでも自然排便が出来るよう、食事など工夫して行き来したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいの声かけをし、必要に応じて介助・見守りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取と毎食記録し、栄養のバランス、カロリーを考えながら提供している。青ものの、野菜は豊富にとっている。	○	入居者、一人一人の摂取カロリーや水分摂取量栄養バランスを1日全体を通じて、おおよそ把握する様にしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のキャリアの有無を診断書で確認しており未然に防ぐ工夫している。利用者、職員は毎年、インフルエンザの予防接種を受けている。年1回、検査をしている。(健康診断)	○	手洗い、うがい励行・感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機を使用し、フキン、まな板も定期的に漂白し、食材には必ず火を通すようにしている。買いだめはしない。冷蔵庫も清潔を保つよう、そうじを行なっている。	○	食器乾燥機の使用、食材には必ず火を通す様にしている。衛生管理をしっかり行なっていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設前の庭には、プランターやベンチ、物干しもあり、過程的な感じに行っている。玄関など職員が気配りしている。	○	とうがんや色々な野菜が沢山あり、アットホームだと言われている。明るい、かざりつけがある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一目でわかる大きなカレンダー(職員の手作り)毎日、ながめる習慣に行なっている方もある。フローアの飾りつけ(花・鉢物等)居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアには、ソファとテレビがあり気の合った利用者同志、過ごせる場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた物を持ってきていただき、落ち着いて生活していただける様にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候の変化、体調に合わせて、各居室ごとに調節したり、その都度、可能な限り換気する様に努めている。トイレ・汚物室には消臭剤を置く。	○	少しでも気持ちよく過ごせる配慮をしている。エアコンは常に使用し、保湯に気配りをしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアー、全居室に手すりが付き、バリアフリーにもなっていて安全確保に努めている。入居者が自由に行くことができ、日常生活を維持、向上している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のADLを職員が把握し、何が出来、楽しみは何か、何を援助すれば良いか、見極め支援している。	○	一人一人の思いを聞き工夫し、話し合いながら良い環境を作っていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設前には広いスペースがあり、体操や散歩にと活用している。畑の収穫も一緒に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・天気の良い日には、外に出てホームの前の広場でラジオ体操、歌、ウォーキングなどおこない、楽しんでいる。 ・職員が花が好きな為、ボランティアで居室・リビング・玄関には四季折々の花がかざられています。 ・外出支援で週一回、喫茶店へ行き、楽しんでいる。 ・歌の好きな利用者はカラオケ喫茶でステージに立ち楽しく歌う ・各季節で花見(桜、藤の花、あじさい、チューリップ、イチョウ祭り) ・毎年8月14日に花火大会、バーベキュー大会をして、大いに楽しんでいる。 ・敬老の日は手作りのお弁当が配られ、ボランティアのおどりがあります ・毎年、中学校の体育祭、文化祭へ招待していただき参加している。 ・日々職員、本部・市の方々・民生委員等に支えられ過ごしています。心より感謝しています。ありがとうございます。